



題字・松尾金藏書
発行

修猷館同窓会東京支部
事務局

〒185-0034
東京都国分寺市光町2-14-85
(有)バルティール内
FAX 042-573-5060
東京修猷会ホームページアドレス
http://www.shuyu.gr.jp



「untitled」

福岡県立美術館収蔵

古川吉重(S15年卒)作

1921 福岡市生まれ
1943 東京美術学校
油絵科卒業(現東京芸術大学)
1963~2000 ニューヨーク在住
2001より相模原市在住

作品収蔵先
東京国立近代美術館 京都国立近代美術館
国立国際美術館 福岡市美術館
大原美術館 福岡市役所
西日本新聞社 九州電力(株)
福岡県美術館 田川市立美術館
大英博物館(ロンドン)NY図書館
ブランダイス大学ローズ美術館(アメリカ)
ローランドギブソン美術館 アメリ
テック ソロモンプラザ東京
オフィス
ワシントン・レーガン空港(特殊壁
画) その他個人コレクション

東京修猷会によせて



東京修猷会副会長
久保田勇夫
(昭和36年卒)

明けましておめでとうございます。昨年、東京修猷会の副会長の一人を仰せつかりました。微力ですが全力を尽くしたいと思っておりますので、何卒よろしくご指導のほど、お願い申し上げます。

私は、昭和三十六年、修猷館を卒業して東京に出てまいりました。以来四十二年、故郷を離れております。その間、東京と福岡の間を何回往復したことでしょうか。学生の頃は、夜行の臨時急行列車を利用するのが常でした。夜の十一時近くに東京駅を発った臨時急行「筑紫」は二十四時間近くかかって、漸く博多駅に着きました。東京駅で二、三時間前から列に並んで漸く座席を確保しました。運が良ければ、「あさかせ」、「はやぶさ」といった寝台特急の恩恵にあずかることが出来ました。これだと十六時間余りで博多に着きましたし、夜の間は眠ることが出来ました。今は一時間半のフライトと地下鉄で、随分と便利に、また、楽になりました。

福岡では、両親の家に泊まりました。父が亡くなり母が一人で暮らすようになってからも長い間、その世話になりました。そして、母が年をとり、他人のめんどうはみきれないという頃から、私は天神北のきちんとした手頃な料金のビジネスホテルを定宿にするようになりました。

このホテルから天神に向かって一、二分歩いたところの、小路の傍らに、高さ一メートル足らずの小さな石碑がありました。正面に「広田弘毅先生 生誕之地」とあり、右側面に「昭和五三年十一月建之 生誕百年 三十回忌 記念」と、左側面に風格のある字で「出光佐三書」とあります。

時間があれば、足を延ばして彼の有名な水鏡天満宮に向かい、広田弘毅氏が子供の頃揮毫された「天満宮」の額を眺めまわす。実に伸びやかな字だと思えます。ライトアップされた夜は更に情緒があります。

その際、頭をよぎることがあります。それは、格別に都会的環境に育ったわけでもないこの頭脳明晰な青年が、世間の支援を背に、どういう状況の下でこの東京で、大学生活を送り、外交官となり、外務次官にまで上りつめ、ついには外相、首相にまでなったのだろうか、また、あの東京裁判で、何故、弁明の言を何ら発することなく、むしろ進んで死を受け入れたのであろうか、ということでありました。二つ目の間についてはともかくとして、第一番目の間については、その答えが多少、想像出来るような気がしております。

結論を先に書きますと、この東京というところは、(これが当てはまらない人も勿論いるでしょうが)、修猷館の卒業生にとっては、或いは九州出身者にとつては、社会的には、余り居心地の良いところではないのではないか、ということですね。

世間に出て、修猷館のOBやOGの話に及ぶと、「ああ、あの変わった人ですね」という答えが返ってくるのがよくあります。この場合、先方はネガティブな意味あいを含めているのが普通です。ところが、よくよく聞いてみると、それは多くの場合、当人が自分独自の人生観を持っておりそれに従って発言したり行動しているだけだということがわかります。だとすれば、その人は自己の価値観を持っており、しかもそれに忠実だということですから、真に人間らしい立派な人だということになるはずですね。付和雷同して耳障りの良いことばかりを言う人々とは区別されてしかるべきでしょう。

また、ここでは、「至誠天に通ず」、「不言実行」、「敬天愛人」、あるいは、「御国の為に、世の為に」といったわれわれが慣れ親しんだ概念は、残念ながら、そう簡単に通用しないように思っています。こういうことをあまり振りかざしていると、足をすくわれ、好ましくならざる結果を招くことが少なくないかもしれません。

また、むずかしい時期に、むずかしい仕事を委され、それなりの成果を挙げたにもかかわらず、十分報われないいわば「功多くして功名少ない」ことも少なくないかもしれません。

しかしながら、先に述べたように自らの価値観を持ち、それに従った生き方をすることはとても大事なことであり、また、そうすることは、わが国が世界各国に伍していく上で、とても大切なことのように思えます。長年、欧米先進国とも、途上国とも国際交渉を行なってきた私は、ある程度自信をもってそういうことを申し上げたいと思えます。

だとすれば、わが修猷館の卒業生達が、そのありのままの姿で活躍することは、広くわが国の利益にかなうものである、という理屈も成り立つことになりそうです。

いずれにしても、新年が皆様方にとりまして、良い年でありませうとお祈りしつつ、ペンを置きます。



東京修猷会〇〇四年活動スケジュール

- 1月
 - 二木会は六、八月を除く毎月第二土曜日
 - 六時から食事、七時から講演
 - 1月8日 元日に全会員に送付
 - 2月 小川 洋(S13年卒)
 - 2月
 - 「これからの技術開発政策について」
 - 二月十二日 二木会 於 学士会館
 - 3月
 - 三月十一日 二木会 於 学士会館
 - 下旬 常任幹事会(決算見直し、総会内容発表等)
 - 4月
 - 四月八日 二木会(新人歓迎会)
 - 中旬 二木会ゴルフコンペ
 - 5月
 - 五月十三日 二木会 於 学士会館
 - 6月
 - 六月十一日(金) 総会
 - 「修猷伝説!知ってる?こんなこと」 & 懐かしい先生方のビデオレター
 - 於 日本都市センターホテル 午後六時より (幹事学年は五三年卒)
 - 7月
 - 七月八日 二木会 於 学士会館
 - 9月
 - 九月九日 二木会 於 学士会館
 - 10月
 - 十月十四日 二木会 於 学士会館
 - 下旬 常任幹事会(総会報告、来年度総会計画発表等)
 - 下旬 二木会ゴルフコンペ
 - 11月
 - 十一月十一日 二木会 於 学士会館
 - 12月
 - 十二月九日 忘年会
- その他、執行部としては、総会準備のための幹事学年との打ち合わせ、会報編集会議、他支部の同窓会総会への出席など随時行っています。